

# ガーデニング

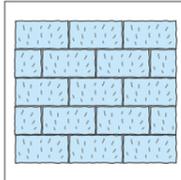


## 芝張り方法の種類

芝を張る場合、その並べ方には大きく分けて4通りの方法があります。

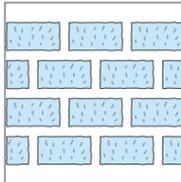
### ●ベタ張り

すきまなく張る方法。もっとも早く芝生が完成し、仕上がりがきれいだ。芝苗が大量に必要な。

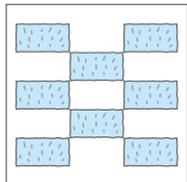


### ●目地張り

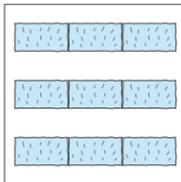
芝苗と芝苗の間を3~4cmあけて張る方法で、もっとも一般的。芝生が完成するまで、5~6カ月ほどかかる。



### ●市松張り

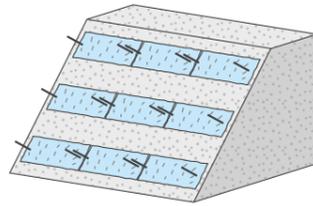


### ●筋張り



ベタ張りとは比べ、芝苗が半分の量でよい。経済的だが、芝が均一になるまで1年ほどかかり、その間、雑草の処理などに手間がかかる。

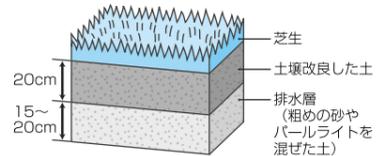
斜面に張る場合は、根付くまではがれないように、芝苗1枚につき2カ所ほど、竹串でさして留めておく。



## 芝生の張り方と管理法

### 植え付けの適地と適期

芝生の植え付けに適しているのは、日当たり、水はけ、風通しが良い場所です。特に、日当たりは重要で、1日に最低4時間は日が当たる場所でない、きれいに生育しません。また、水はけのよさも大切。水はけが悪いときは、土づくりをする際に深く掘って、粗めの砂やパーライトを混ぜた土で排水層を作ってから、土壌改良した土を載せるようにするとよいです。



水はけが悪い場所での土壌づくり

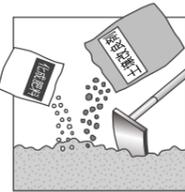
芝を張るのに適した季節は、春(3月~5月)か秋(9月~10月)。ただ、寒い地方は春に植えたほうが無難です。

### 床土の作り方

1 石や草の根などを取り除きながら、芝生を植える地面を最低15cmの深さに掘り返す。



2 全面がうすら白くなる程度(1㎡あたり100~200gくらい)に苦土石灰をまいたあと、1㎡あたりバケツ1杯ほどの土壌改良剤(堆肥や腐葉土など)と200gの化成肥料を入れて土をよく耕す。その後、石灰がなじむまで3~4日放置しておく。



3 再度、耕してからレーキなどで土を整地する。



4 足で軽く踏みならすか、木片でたたいて土の表面のデコボコをなくす。

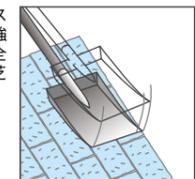


### 芝の張り方

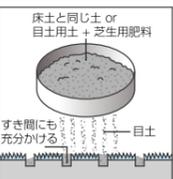
1 芝張りの方法を決め、芝苗を1枚ずついいねいに張りつけていく。あとで囲みをつける場合など、きちんと張りたい場合は、床土にクイを打って糸を張り、その糸にそって芝苗を並べるようにすると、きれいに張れる。端の形を合わせたい場合は、ハサミなどで切るとよい。



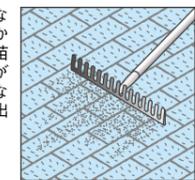
2 張り終えたら、角スコップか板切れで強くたたき、足で全体を踏みかして、芝と土をなじませる。



3 ふるいを使って全体に土をかける。この作業は「目土をかける」と呼ばれている。土は床土と同じ土でもよいが、市販されている芝生の目土用の土に芝生用肥料を加えたものを使ってもよい。



4 レーキの真っすぐな面などを使って、かけた目土を目(芝苗のすき間)の段差がないように、平らにならす。芝がうすら出るくらいがよい。



5 ホースなどで水をたっぷり与える。このとき、芝の一部をめくって、下まで水がしみているか確認するとよい。ただ、表面に水たまりができるほどは与えないように注意。



### 芝生の管理法

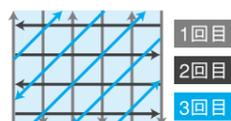
#### 芝張り直後の管理法

☆芝を張ってから1週間くらいの間は、目土が白く乾いたら水を与えるようにします。  
☆2週間程度はロープを張るなどして芝生に入らないようにして、根がはるのを待ちましょう。  
☆初めての芝刈りは、張ってから3週間~1カ月くらいして葉が6~7cmほど伸びてから行います。4cmくらい残して刈るようにしてください。

小さな面積なら、刈り込みバサミを使っても刈ることができます。

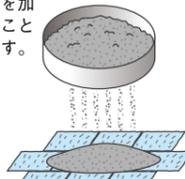
#### ●芝刈りのコツ

刈るつどに方向を変える。前回、縦方向に刈ったら、今回は横、次回は斜めといったように、刈る方向を変えると刈り跡が残らず、きれいに仕上がります。また、放置して葉が伸び過ぎてしまった場合、一度に短く刈ると、全体が黄色くなり枯れることがあるので注意。日を置いて、何回かに分けて刈るようにしましょう。



#### 目土入れ

年に1回、春先に肥料の入った土を芝生一面に約1.5cmの厚さにまき、平均にならしてやると、芝の寿命を保つことができます。土は市販されている目土用の土に芝生用肥料を混ぜて使うと便利。庭土7に砂3の割合で混ぜたものに芝生用肥料と苦土石灰を加えて作ることもできます。

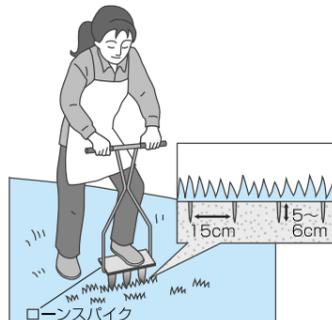


#### ●芝刈り機の選び方

芝刈り機には手動式と電動式があります。好みで選ぶとよいのですが、芝生面が広い場合は電動式のほうが楽。また、堀の際や敷石のまわりなどは、バリカン式のものを使いやすいでしょう。

#### ●施肥

春先の目土入れて肥料も入れるので、あとは特に施肥する必要はありませんが、芝の葉が黄ばんできたり、生育が悪いようなら、夏から秋にかけて芝生用肥料を追肥として与えてやると効果的です。1㎡あたり100gを目安に均一にまくようにしましょう。

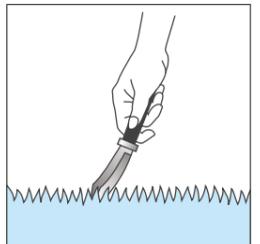


#### ●エアレーション

土が固くなると、通気や水はけが悪くなり、芝全体が弱ってしまいます。そんな場合は芝生に穴をあけてやると改善します。穴は深さ5~6cmのものを15cm間隔で。杭などを使ってもよいのですが、専用のローンバイクという器具を使うと作業が楽。毎年、4~5月くらいに1回行ってやるとよいでしょう。

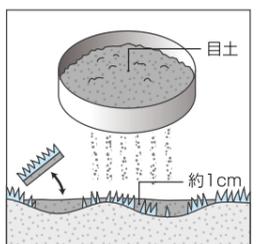
#### ●サッチ取り

サッチというのは、枯れた葉などが固まったもので、これが堆積すると養分や水分の吸収を妨げてしまいます。そうなったときは芝にナイフやカマで20~30cm間隔に浅い切れ目を入れ、金属製のクマデなどで枯れた葉をかき出してやるようにします。その後、エアレーションしてやると、さらに効果的です。



#### ●デコボコや部分的な修正

芝生がデコボコになってしまった場合は、その部分にナイフやカマで切れ目を入れて芝をはがし、くぼんでいる場合は目土を入れ、出っけている部分は土を取って平らにして芝を戻してから、足でよく踏み、目土をかければOK。へこみが少ないときは、上から目土をかけてやるだけでも直ることもあります。また、部分的に薄くなったような場合は、同様にしてその部分の芝をはがしてから新しい芝を入れて目土をかけてやるようにしてください。



### 芝生の選び方

芝生には暖地型芝生と寒地型芝生があります。寒地型芝生は、一般に洋芝と呼ばれ一年中緑を保って美しいのですが、日本では管理が難しいのが欠点。個人の庭に植えるのならば、暖地型芝生がおすすめです。中でも一般的なのは、コウライ芝とヒメコウライ芝。種子を植える寒地型芝生に対して、こちらは芝苗を使います。芝苗はふつう、1㎡分の芝を1セットとして売られていますが、芝の切り方はまちまちで、枚数や大きさが一定していないので、1束でどのくらいの面積を張ることができるのか聞くとよいでしょう。また、雑草が交じっていないか、蒸れて中の芝が腐っていないかも確認。地下茎が縦横に走り、土がよくついているものがよい芝苗といえます。